

① 計画策定の趣旨

- 地域交通は、交通弱者等にとってのセーフティネットであるだけでなく、**生き生きと暮らせる魅力的なまちづくり、県民のウェルビーイングの向上にとって不可欠**
- 一方、地域交通を取り巻く環境は、人口減少、燃料費高騰や新型コロナの影響等により大きく変化していることから、**法定計画である「富山県地域交通戦略」を策定**
- 策定にあたっては、①人に焦点をあててQoLの向上を重視し、②バックカasting型のプロセスをとり目標とする将来像から逆算して施策を検討する（欧州における「持続可能な都市モビリティ計画（SUMP）」の考えを参考）



② 計画の区域・期間

- 計画の対象は県内全域
- 計画の期間は令和6年度～令和10年度（5年間）



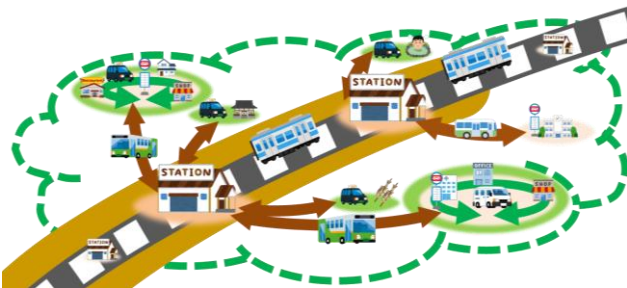
③ 基本的な方針・考え方（基本理念）

- **カーボンニュートラル等の社会からの要請に応え、ウェルビーイングの向上をもたらす最適な地域交通サービスの実現を目指す。**
<ウェルビーイングの向上をもたらす最適な地域交通サービス>
 1. 誰もが利用でき、使いやすく便利で安全快適に移動できる。
 2. これまで以上に社会と関わりをもち、生き生きと暮らせるようになる。
 3. 日々の生活の中で获得感、満足感、新しい発見を得られる。
- 自治体や地域住民の積極的関与・参画、事業者間の協調など、**関係者間の役割分担・責任分担について考え、地域全体で実現を目指す。**



④ 地域交通ネットワークの目指すべき姿（将来像）

- **全市町村に鉄道が通る富山県の強みを活かし、幹となる鉄軌道や駅を中心にあらゆるサービスが木のように一つに繋がるネットワーク**
- （目指すべき姿その1）
鉄軌道サービスの利便性・快適性向上
- （目指すべき姿その2）
結節点となる駅の機能強化
- （目指すべき姿その3）
地域内のモビリティサービスの確保
- （目指すべき姿その4）
ネットワーク内のサービスの統合・進化



⑤ 計画の目標

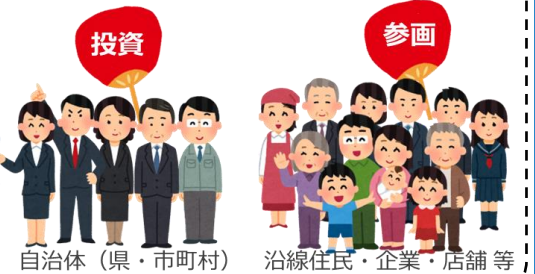
- 計画策定後、定期的にモニタリングし、その結果を踏まえ施策等についても、必要に応じブラッシュアップを図っていく。
- <目標1> 県民一人当たりの地域交通利用回数 50回/年**
地域交通サービスの最適化を通じた県民の利用機会の増加を目指す。
- <目標2> ガソリン車の台数 ▲20万台**
カーボンニュートラルを推進するため、地域交通の利用を促進し、ガソリン車の台数の削減を目指す。
- <目標3> 地域交通への満足度 1.25倍**
県民の満足度の改善を図り、ウェルビーイングの向上を目指す。



⑥ 関係者でともに取り組む施策

<施策に取り組む際の関係者の役割分担>

- **地域交通サービスはその地域の活力・魅力に直結する「公共サービス」であり、自らの地域をより良くするため必要なサービスの確保・向上についての自治体・県民の役割を、事業者への側面支援から、自らの地域に対する「投資」・「参画」へと舵を切ることが必要**



<施策内容>

- | | |
|--|--|
| <h4>I. 地域の活力・魅力向上のための「投資」</h4> <ol style="list-style-type: none"> 1. 鉄軌道等のサービスレベル向上に対する投資 <ol style="list-style-type: none"> (1) 鉄軌道の混雑緩和等のための輸送力の強化 (2) 快適性・環境性の向上のための鉄道車両の導入、鉄軌道設備の更新・改良等 (3) キャッシュレス決済の導入 (4) サービスを支える担い手の確保・育成 (5) 教育・子育て・福祉等を支える鉄軌道サービス等の確保 2. まちづくりと連携した駅の機能強化に対する投資 <ol style="list-style-type: none"> (1) 駅を中心としたまちづくりや駅の交通結節機能の強化 (2) 市町村のまちづくりの拠点となる駅の空間を活用した地域拠点機能の強化 (3) 駅施設のバリアフリー化 3. 地域内のモビリティサービス（バス・タクシー・新モビリティサービス）に対する投資 <ol style="list-style-type: none"> (1) 新たなサービスの立上げなど地域主体の取り組みの推進 (2) サービスを支える担い手の確保・育成等 4. ネットワーク内の移動・交流の創出に対する投資 <ol style="list-style-type: none"> (1) ネットワーク内のサービス等の連携（MaaSの充実等） (2) とやまロケーションシステムの充実・利活用 (3) 地域交通に関するデータ連携基盤の構築 | <h4>II. 地域の活力・魅力向上のための「参画」</h4> <ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者としての参画 <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域交通を中心としたライフスタイルへの転換 2. 支え手・担い手としての参画 <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域交通の支え手としての積極的な参画 3. 沿線まちづくりとしての参画 <ol style="list-style-type: none"> (1) 駅を拠点としたまちづくり (2) 拠点駅の駅空間等を活用した事業活動・社会活動 (3) 地域の魅力向上につながる駅設備・車両のデザイン性向上 4. 地域交通サービスとの連携等を通じた参画 <ol style="list-style-type: none"> (1) 各文化・商業施設や観光地等における地域交通の運行情報等の案内 (2) 沿線地域の関係者と連携したMaaSアプリでの新たなデジタル乗車券の企画・作成 (3) 各地域のイベントと連携した地域交通の誘客や観光資源としての活用 (4) 地域交通サービスによる観光客の移動環境の整備 (5) その他、他分野・他業種と地域交通サービスの連携の検討 |
|--|--|

